

板と旧日亜製鋼が本年4月合併した会社であり、当工場の他に南陽、呉など7工場を有している。会社の資本金72億円、当工場の従業員数約1500人、敷地は32,000坪である。見学はメルツ式50t重油専焼平炉3基で16,000~17,000t/月の鋼塊を生産している平炉工場、2重逆転式圧延機2standで210×193, 145φなどのブルーム、65φ~125φのビレット230~85×53のスラブを13,000t/月生産する鋼片工場、3重逆転式圧延機3standを有し38φ~100φの丸鋼、45φ~60φのビレットを2000t/月生産する条鋼工場、1~6×230~90および1~3.5×90~45の帯鋼を6000t/月生産する1帯工場、梱包用の小巾帯鋼として0.9~3.2×19~50を400~500t/月生産している2帯工場について行なつた。比較的小規模ながら生産品種は多岐にわたり、日新製鋼の一工場として今後の発展が期待される。

帰途はふたたびバスにゆられ16時30分大阪駅で解散した。

最後に当日の見学に際し格別の御高配をいただいた尼崎製鉄および日新製鋼の方々に厚く御礼申し上げます。

(住友金属工業 井上 幌記)

神戸第1班

秋期大会は初日雨にたたられたが、翌日より晴れて、今日も快晴にめぐまれ絶好の見学日和である。われわれ神戸第1班80名は9時30分三宮駅北口で2台のバスに分乗した。

株式会社 神戸製鋼所灘浜工場

先ず神戸製鋼の真新しく豪華な健康保険会館に到着、茶菓の接待を受けながら、中村工場長より7万坪の海岸を埋立てて建設された灘浜工場の設備概要、特に酒造屋前の海を埋立てた関係で、防塵装置に特に力を注いだとの説明があり、灘浜工場の映画を見てから、再びバスに乗り灘浜工場に到着、約一時間見学した。先ず1万t級の着岸できる岸壁より原料処理の管理センターに上ると、四方のガラス窓より、アンローダー、スタッカー、ベルトコンベア、ヤードなどが一目で見え、one man controlができるようになっていいる。ベルトコンベアなどには防塵のためカバーが設けられ、また到る処にサイクロンがあり防塵に努力しているのが感じられた。時間の関係で残念ではあつたが、焼結設備をとばして高炉に直行、セルフスタンディング型の600tの高炉を見学する。目下920t/day、コークス比0.56の由である。よく整つた計器室を見てから階段を下りたが、スキップに装入する際の防塵装置がめづらしい。12時バスにのり、堀をへだてた酒造倉庫を眺め、我等が銘酒の味を落させぬために、防塵に心をくばられる神戸製鋼に敬意を表しながら健康保険会館に戻り昼食を取る。

川崎重工業株式会社

午後1時神戸の港を左に見ながら、バスは川崎重工業のパトリシア会館に向う。ここで灘工場長より造船、特に材料、熔接などの説明があり、またわれわれに耳いたいことであるが、造船費の70%を占める鋼材費を技術の向上により下げてもらいたいとの要望がある。次いで川崎重工の映画を40分ほど見て、バスで広い構内を回る。あいにく造船台は最近水したばかりで、建造して日なほ浅い船しか見られなかつた。また2万t浮ドックに

は定期修理の貨物船が入つていた。変つた所では自衛隊の潜水艦、駆逐艦が建造中であつた。

造船工場に移り大型工作機械、特に歯切機械などがめづらしかつた。乾いたノドをコーヒーで潤しながら、質疑応答があり、本日の見学を好意を持つて迎えて下さつた神戸製鋼、川崎重工の皆様に感謝しつつ、われわれの乗つたバスは一路の三の宮駅に向つた。

(九州工業大学 相馬胤和記)

神戸第2班

川崎製鉄株式会社葺合工場

午前9時45分三宮駅をバス1台に乗り乗して出発した。神戸第2班は10分後目的の同工場に到着直ちに同社健康保険会館において下山田工場長および今井研究所長の歓迎の挨拶を受けた。これに対し神戸第2班々長東北大学金研所長大日方博士より一同を代表して謝意を表し、直ちに工場の歴史および生産設備などに関する説明を拝聴した。

当社は川崎造船所が鋼自給のため兵庫工場を開設した時に始まり40年前にこの葺合工場が設けられた。当時は厚板の製造を行いその後、薄板の生産を始めたものである。それから時代の変遷と共に川崎重工業となり戦時を過ぎ現在は川崎製鉄の社名の下にある。当工場は敷地9万坪、建坪5万坪を有し従業員は工員5,500人、社員800人を擁し11部31課ある。現在生産状況は厚板26,000t、高張力鋼板、薄板などを15,000t中でも3mm以上のクラッド鋼板、ステンレス鋼板、珪素鋼板を今後大に期待されているようであつた。特に高張力鋼板は銀塊、スラグを千葉工場より運び、80kg級のを製造しているとのことであつた。ステンレスは1mm以上は当工場、薄手0.2mmまで西宮工場で作作している。なおその外センデミヤ20段40"圧延機の話もあつたが見学はできなかつた。その他平鋼、亜鉛メッキなどもある以上概要説明を終り工場見学約1時間ふたたび健保会館に戻り質問に各担当者の応答を受けた後映画新しい製鉄所により千葉工場を見せて戴いた。時に12時5分となり中食をとり休憩後一同当社見学御案内の諸氏にあつく御礼をのべつつふたたびバスに乗つてことを辞しつぎの見学工場新三菱神戸造船に向う。

新三菱重工業株式会社神戸造船所

バスに揺られること20分足らず目的地神戸造船所に到着直ちに接見間に招じられ金沢副所長の歓迎挨拶ついで班長大日方博士の謝辞の交換あり、当所の概要説明に入る。当所は54年前三菱合資の所属船舶の修理工場として創立され今日に至り屈指の造船所となつたもので3つの浮ドックと1つの乾ドックを有し65,000tのタンカーを収容しその修理能力は日本最高である。船台も4台あり1号がやはり65,000tその他も2万内至3万の造船ができる。現在関西汽船くれない丸2,500tを11月18日進水予定でなお輸出船21,000tが1号船台に造船中である。しかし今日の造船不況のため今後7~8ヵ月で船舶は種切れの状態で見通しは暗い、そこで現在は陸上機械に60%の生産をおこない水力、火力発電所の建設ボイラー、タービン、鉄骨建築ディーゼルエンジンなどいろいろな大型機械の製作をおこなつていいる。なお当所は戦時中の中日本重工業KKの名古屋、京都、水島